

Kiko

ナイロビ

気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012
 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 半蔵門ポッドフィールド 2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463
 E-mail: kyoto@kiconet.org (京都) tokyo@kiconet.org (東京) URL: http://www.kiconet.org/

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

リーダーシップ、勇気、そして行動を示せ！

2週間前、ecoは、ナイロビ会議に大きな期待を寄せていた。この会議は、締約国がアフリカのような気候変動の悪影響に対してもっとも脆弱な国々や将来世代に対する責任を認識する会議だと考えていたからだ。そしてこの2週間、ecoは、いかに気候変動がアフリカ全体でそこに住む人たちの命や生活を危険にさらしているかということを知った。ケニアのある地域では、2003年に始まった干ばつに見舞われている。そして、ケニア北部では、牧畜民が、1000万頭の家畜を失った。ツルカナ地域では、人口の3分の2の地域の人々が彼らの生活を失い、マサイの牧畜民は、500万の牛を失った。

閣僚級会議で、大臣たちはスピーチで、京都議定書を良くして行くことを呼びかけた。しかし、締約国は、ここで、本当に、それを実現するための交渉をする気があるだろうか？気候変動対策を強化し、世界中の気候変動の悪影響を受けるもっとも脆弱な人々の要求に応えるたったひとつの機会への入り口がある。

ecoは、今日、締約国が、人類が直面する気候変動へ大きな挑戦に匹敵するリーダーシップを見せるよう強く希望する。先進国も途上国も、世界全体の未来は、ここで締約国が行う決定次第なのである。(eco 11/17号抄訳)

議定書9条

議定書9条のもとでの議定書の見直しに関する交渉が大詰めを迎えている。交渉は、16日深夜まで行われ、最終日まで続いている。

交渉は、議長から出てきている最新テキストをベースには、以下のような内容が含まれている様子である。

毎日の会議の様子を伝える、アースネゴシエーションプレティン(ENB)によると、現在の焦点は、第2回目の見直しのタイミング、その後見直しの開催期間(2~5年ごと)、そして、この見直しは、非附属書国(いわゆる途上国)にとって、京都議定書のもとで附属書国(いわゆる先進国)が現在課されているような国レベルの削減数値目標につながるものではないという

記述を含めるかどうかである。

締約国は残された時間で、ここで議定書9条のもとでの議定書の見直しについての合意をまとめ、京都議定書をベースとした次期枠組み(「京都2」)へ続く道筋ができたことを示さなければならぬ。

その他の議論

15日には、議定書9条の見直しの議論より先に進めることが難しいと思われていた、先進国の更なる排出削減義務について検討する議定書3条9項特別作業部会(AWG)について合意がまとまった。2008年末というNGOや途上国が希望した合意期日は決まらなかったものの、2007年のスケジュールを中心とした作業計画がまとまった。

また、京都議定書のもとにできた適応基金、そして、適応の5ヵ年計画に関する議論がまとまった。

適応基金は、クリーン開発メカニズム(CDM)によって生じる利益(クレジット)の2%が資金源となっているものである。来年のCOP/MOP3でどこがその適応基金を運用するかなどいくつか残された点について決めれば、動き出すことができる。これはアフリカのような気候変動の悪影響を受ける国々にとっては、非常に大きな一歩であるといえる。

Kiko COP12/MOP2通信 No.4

2006年11月17日発行

発行/編集 気候ネットワーク

川阪京子

現地携帯 +254 (0)720 081 782 (川阪)